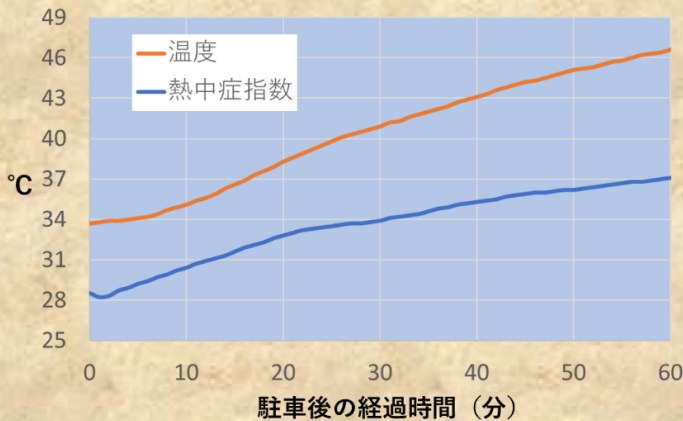


熱中症を防ごう！その④

これまでは屋外での気温や暑さ指数についての実験を紹介しましたが、今回は「車内」です。暑い日の日中、直射日光のあたる場所に駐車した車に乗った際に、ハンドルが握れないくらい熱くなっていた。そんな経験をされた方も多いのではないのでしょうか。

8月某日の松江市内で、日の当たる場所に停めた車の中の温度と暑さ指数がどのようになるか、測定してみました。結果は下の図のとおりです。



※実験開始前は日陰で駐車をしていました。

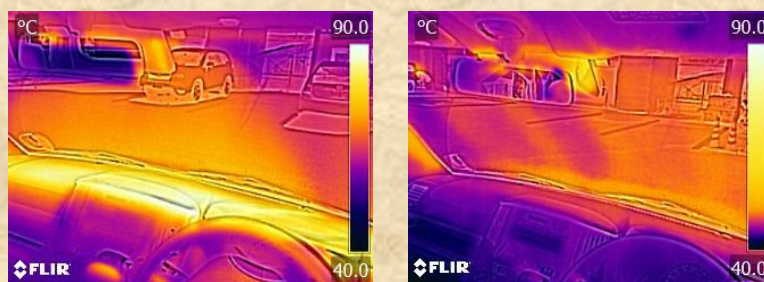
【参考：暑さ(熱中症)指数について】
 暑さ指数とは、人間の熱バランスに影響の大きい気温・湿度・輻射熱(ふくしゃねつ)^{※1}の、3つを取り入れた温度の指標です^{※2}。熱中症警戒アラートは、「暑さ指数」の値が33以上と予測された場合に発表されています

※1 輻射熱とは、日射しを浴びたときに受ける熱や、地面、建物、人体などから出ている熱です。温度が高い物からはたくさん出ます。
 ※2 正確には、これら3つに加え、風(気流)も指標に影響します。

この日は、少し雲があり、実験中、日光が雲に遮られる時間帯もありましたが、気温は30°Cを超えていました。車内の温度は、直射日光のあたる場所に駐車後、約25分で40°C以上に上昇し、暑さ指数は約10分で危険とされるレベル(暑さ指数31°C以上)まで上昇しました。

このことから、直射日光のあたる場所での日中の駐車は、たとえ短時間であっても車内にいる場合はエンジンをかけて冷房をつけるなど、注意する必要があることがわかります。

また、8月の別の日に、赤外線カメラを使い、直射日光が当たった場合と、日除けを使った場合のダッシュボードの温度を比べてみました。



上：車内に日除けを使用した状況
 駐車約2時間後のダッシュボードの温度
 左：日除けなし
 右：日除けあり

この結果から、直射日光が当たった場合、ダッシュボードは90°C近い温度になっていましたが、日除けを使った場合はダッシュボードの温度を抑えられることがわかりました。

まだまだ暑い日は続くと思われませんが、屋外以外でも熱中症の危険はありますので、気を付けてお過ごしください。

使用機器：サーモグラフィカメラ FLIR C5
 熱中症指数計 AD-5695DL
 執筆者：気候変動適応センター 木戸